

算数科における「問題解決的な授業展開」と「児童の学びの見取り」

【小学校】初任者研修に係る校外研修「授業参観」 令和4年7月12日

○目的

令和4年度初任者研修の対象者に対し、授業参観及び授業づくりに係る研究協議を通して、実践的指導力の向上に資する。

【当日の流れ】

①授業VTR視聴

②研究協議「算数科における問題解決的な授業展開及び児童の学びの見取りについて」



授業の概要

受講者の学び（「研修振り返りシート」より）

【授業者】

日田市立日隈小学校：朝倉小百合 指導教諭
小学校第5学年

■単元名 「図形の角の大きさ」

■単元目標(思考・判断・表現)

図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、図形の性質を見だし、その性質を筋道を立てて説明することができる。

■本時のねらい

正三角形のプログラムを作る活動を通して、正三角形の性質を見だし、その性質を活用して場面について筋道を立てて説明することができるようにする。

■本時の評価規準

正三角形のプログラムについて、正三角形の性質を使って筋道を立てて説明している。(ワークシート)

【問題解決的な授業展開について】

■1時間の授業の中で解決すべきことを焦点化して児童に示すと、問題解決の見通しが立てやすいということに気付いた。

■自分は授業を進めることに精一杯で、子どもへの声かけが十分に行えていなかったことに気付いた。参観授業では授業者が児童の考えを引き出すための声かけをタイミングよく行っていた。自分も試したい。授業が未消化に終わる子どもをつくらないという気持ちが伝わってきた。

■正三角形をプログラミングしていく際、誤答をあえて提示したので、児童が正解だと思ったもの(自分の予想)とのズレを体感することができ、改めてこの時間の問題解決への必然性につながった。

【児童の学びの見取りについて】

■既習事項を振り返らせることから、児童の学習の定着を見取ることができると学んだ。

■朝倉先生の授業を見て、教師の働きかけによって児童の姿がこんなにも意欲的なものになるのだと感じた。児童の思考の流れを想定しながら授業をつくることの大切さに気付いた。

■自分の考えがまとまっていなくても、途中で考えたことを説明させたり、個人で考えがまとまらないときはペアで相談させたりすることで、児童の問題解決が進んでいく過程がよかった。

■児童に理解できたかどうか、結果のみを問うのではなく、問題解決のために隣の友だちと話ができただかどうかなど「児童の活動」を確認・評価していたことが素晴らしかった。